

製品名: TudorSN ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19429**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	101kDa

抗原情報

遺伝子名	SND1
別名	SND1; TDRD11; Staphylococcal nuclease domain-containing protein 1; 100 kDa coactivator; EBNA2 coactivator p100; Tudor domain-containing protein 11; p100 co-activator
遺伝子 ID	27044.0
SwissProt ID	Q7KZF4
免疫原	ヒト TudorSN の内部領域から得られた合成ペプチド。

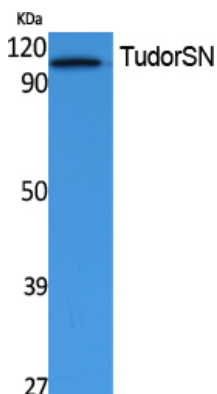
背景

この遺伝子は、B リンパ球の形質転換に必要な転写活性化因子であるエプスタイン・バーウイルス核抗原 2 (EBNA2) の酸性ドメイン

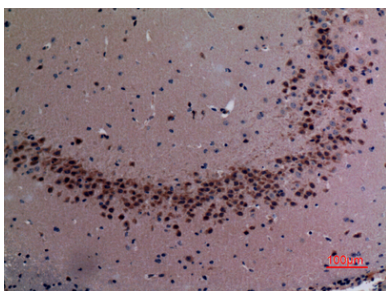
と相互作用する転写共活性化因子をコードしています。このタンパク質と相互作用する他の転写因子には、シグナル伝達因子および転写活性化因子 (STAT) があります。このタンパク質は正常な細胞増殖にも不可欠であると考えられています。哺乳類や他の生物に存在する同様のタンパク質は、RNA 誘導サイレンシング複合体 (RISC) の構成要素です。[RefSeq 提供、2016 年 7 月]、機能: STAT6 と基礎転写因子間の橋渡し因子として機能します。MYB 活性の PIM1 制御において役割を果たします。エプスタイン・バーウイルス核抗原 2 (EBNA2) の転写共役因子として機能する。、PTM: in vitro で PIM1 によってリン酸化される。、配列注意: フレームシフトにより誤った転写開始が生じる。、類似性: 1つの Tudor ドメインを含む。、類似性: 4つの TNase 様ドメインを含む。、細胞内局在: IL-4 刺激細胞では、核内で STAT6 と共局在する。質量分析により、ステージ I からステージ IV までのメラノソーム分画で同定された。、サブユニット: EBNA2 の酸性転写活性化ドメインに結合する。EAV NSP1 と相互作用する。GTF2E1 および GTF2E2 と相互作用する。STAT6 および POLR2A と三量体複合体を形成する。STAT5 と相互作用する。、組織特異性: 普遍的に発現する。、

研究分野

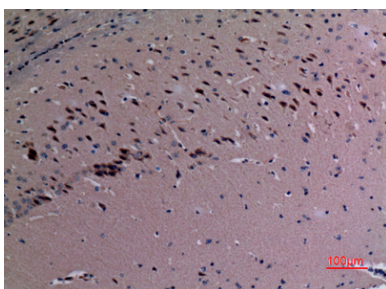
画像データ



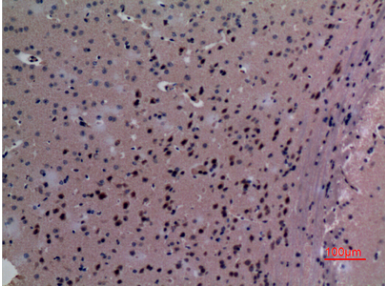
TudorSN ポリクローナル抗体を用いた Jurkat 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



パラフィン包埋マウス脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された